

令和4年度学校評価中間報告

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価
学校行事(総務部)	・意義を明確に認識させることにより、それに伴った所作、行動をとれるようにする。	・行事の目的、意義を告げ認識させる。身だしなみ指導と所作指導を細やかに行う。	・関係分掌と学年と連携をした身だしなみ指導、所作指導をすすめる。個々に場に応じた姿勢・行動が自らとれるようにする。	コロナ禍のため、入学式以外は放送やZoomを利用して式や集会を実施した。担任の先生方の協力もあり、目的意義を周知させ、所作も含めて滞りなく進行することができている。
学習指導(教務部)	・授業の充実 ・新学習指導要領への対応(観点別学習評価の適用) ・校務支援システム(スクールエンジン)の円滑な運用	・授業状況の把握、情報交換の活性化を図る。 ・新学習指導要領について理解を深め、観点別学習評価について検討する。 ・校務支援システムをできるだけ活用する。	・各教科、学年との連携を図る。 ・生徒の実態を正確に把握する。 ・情報を積極的に集め、検討する。	・授業での学びを充実させるため、教科や学年と連携しながら指導に取り組んでいる。なにか問題があればすぐに共有して対応できるように、情報交換が活発にできるようにしたい。 ・新学習指導要領に伴う観点別学習評価の導入や、新しい校務支援システムの運用を円滑に進めていきたい。
進路指導(進路指導部)	・学年や教科と積極的に情報を共有する。 ・模擬試験などのデータと進路結果の関連性を蓄積し、進路指導に活かす。	・進路指導に関する情報の収集を学年と協力して行う。 ・北高生とキャリア教育と進学指導をリンクさせる方法を模索する。 ・模擬試験などのデータと進路結果のデータを結び付け蓄積する。	・良い情報、みんなが同じ情報を見る情報社会の欠点に留意する。 ・生徒から出てきたものを大切に育てる。 ・説得力のある北高独自のデータを見つける。	・進路保護者説明会や面談などを通じて、進路に関する情報を生徒や保護者に伝えている。 ・紙媒体で保存しているものについては、デジタルデータにすることで閲覧しやすいように工夫をしたい。
生活指導(生徒指導部)	・学校が、安心、安全な場所であるためにも学年、分掌間で積極的な情報交換、情報共有を行い、学校全体で指導を行うよう努める。 ・遅刻、欠席、早退を減らし、基本的な生活習慣の確立に努める。 ・身だしなみ指導については、学校全体で取り組む。	・日頃から生徒の様子をしっかり観察し、声かけや保護者との連絡を密にして信頼関係の構築に努める。 ・安易な遅刻や欠席をさせないよう指導を徹底する。 ・身だしなみ指導については再指導を含めしっかりとやり切る。	・生徒や保護者との信頼関係を構築する。 ・生徒達が、学校を安心・安全な場所とし、学習や部活動に専念できるようにする。 ・分掌、学年と連携し、生徒指導にあたる。 ・地域に支えられて教育活動をおこなっており、地域から信用・信頼される行動をとれるようにする。	・遅刻、欠席が増加している(遅刻指数0.4→0.7、欠席指数1.4→1.9)。遅刻、欠席に対する生徒の意識が低下している傾向がある。原因を究明して対策を立てる必要がある。 ・身だしなみについては男子のシャツ出し、女子のスカート丈等、学校生活の中で生徒指導部中心に注意することが浸透してきているので、継続していきたい。
いじめ防止対策の推進(生徒指導部)(教育相談)	・いじめの未然防止に関わる取組を充実させる。 ・いじめの早期発見し、適切に対応する。	・全校生徒を対象にした人権講話を始め機会ある毎に、相手を尊重し、円滑な関係を築き上げることの大切さを伝えていくことでいじめを自発的に防止する態度を育てる。 ・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践していく。	・「生活状況調査」を実施し、生徒の情報を共有し早期発見と適切な対応を、学校全体で実践できるようにする。 ・生徒は、命の大切さ、他人を思いやる気持ちをもてるようにする。	・生徒間のトラブルは数件あったが、分掌として迅速に対応することができた。SNS関連も含めて今後も目を光らせていく。
生徒会活動(生徒会担当)	・帰属意識を高め、自律した生徒会活動と部活動を確立する。	・生徒会規則はじめとする諸規定を実態にあうよう見直しをする。 ・各種委員会・関連実行委員会の積極的な活動をすすめる。 ・生徒会室、生徒会倉庫などの整理整頓と物品の管理をする。	・北高生の将来のあるべき姿を思い、生徒自らがすすんで行動し、社会に求められる人材になるよう配慮する。 ・生徒会予算の計画時に重点項目に留意して配分し、積極的な再配分も行う。 ・わずかな実績づくりから各委員会活動をすすめる、実績ある委員会に導く。 ・活動は、できる限り生徒自ら運営していくようにする。	・生徒会行事において、生徒の自主的な判断や行動がみられるようになった。 ・部活動の予算については、生徒数の減少により例年どおりの予算とはいかないが、必要な部に予算を割り当てることができるよう計画できた。 ・生徒会室や生徒会倉庫の整理が進み、活動の際に効率よく動くことができるようになった。
P T A 活動(総務部)	・授業公開をはじめとする学校行事、総会をはじめとするP T A 行事への参加者を増やす。	・活動や行事の案内をはじめとする広報活動を積極的に進め、また、P T A 新聞を発行することで、取組への理解と協力を得る。	・一宮北高安心メールとホームページの連携を深め、活動や行事の案内を適宜掲載することでできる限りの周知を行う。	学校行事・P T A 行事の案内を、年間行事予定表に記載された一ヶ月前には文書で、数日前には一宮北高安心メールで発信し、伝達の徹底を進めている。その結果、P T A 総会や授業公開、学年保護者会に多くの保護者に参加していただいた。
防災(総務部)	・災害時に安全を確保し、円滑に应急対策をできるように防災体制を見直す。	・防災避難訓練と防災学習(シェイクアウト訓練)を実施し、生徒に防災に対する意識を高めさせる。 ・より具体的な対応を記載した防災体制を作成し、教職員それぞれが周知できるようにする。	・災害発生時間帯、気象条件等できるかぎりの諸条件を考慮し作成する。特に、安否確認と保護者への引率手段、生徒の安全確保対策を確立し周知する。	5/2(金)に防災避難訓練を実施し、その際に防災講話を行ったことにより、生徒の防災に対する意識を高めることができたと感じている。
学校保健(保健部)	・生徒及び職員の健康保持増進を図る。 ・学校生活への適応が難しい生徒について関係諸機関と連携する。 ・ごみの持ち帰りを推進する。	・健康診断により病気の早期発見や早期治療を促し、健康の保持増進を図る。 ・毎朝担任による健康観察を実施する。 ・不適応が見られる生徒について、職員間の情報共有を密にするとともに、SCやSSWと連携をして適切な支援の方策を探る。 ・持ち込んだごみの持ち帰りを呼び掛け、ゴミの削減を目指す。	・学校評価アンケート等で、良好な数値または取組の評価を得る。 ・受診が必要な生徒には、保護者会等も利用して受診の必要性を訴える。 ・生徒の心身の状態を観察することを怠らず、個々の状況に応じた援助ができるようにする。 ・高い環境意識をもった行動ができるようにする。	・健康診断は予定どおり終了した。今後は、受診が必要な生徒にできるだけ早く受診するよう促したい。 ・生徒の個別対応には、SCやSSWと連携して進めている。
図書(図書研修担当)	・文化的な活動及び学習意欲の向上に有効な図書館の活性化。 ・図書館利用の増加を目指す、図書に親しむ機会や環境づくりの向上。	・図書館利用の増加を目指し、文化的な活動や学習意欲の向上に繋げる。 ・教務部と連携し、図書館オリエンテーションや図書委員会活動を活発にし、早朝読書週間やアサドクフェスタ等のイベントの周知をするなど、図書に親しむ機会や環境を充実させる。	・各教科、学年との連携を図る。 ・生徒の活動・活用状況等を把握し活性化に繋げる。 ・学校評価アンケート等で、良好な数値または取組の評価を得る。 ・図書委員会を通して、イベント等の周知を工夫する。	・教務部及び国語科と連携し、図書館オリエンテーションを実施することができ、図書館利用方法等の基本事項について周知できた。また、七夕短冊祭りや図書当番等、図書委員による活発な活動や夏期学習会での図書館活用等、学習意欲の活性化に繋がった。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止(安全衛生)(保健部)	・在校時間の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、教職員のメンタルヘルスの保持に努める。	・部活動の活動日並びに活動時間の適正な設定と確実な運用を図る。 ・退校時間の設定、会議の精選、グループウェア導入による業務の適正化、効率化を図る。	・在校時間の状況記録の結果から前年同月比で時間減少させる。 ・安全衛生委員会のアンケート調査等で、良好な数値または取組の評価を得る。	・在校時間は減少しつつあるが、まだ改善の余地はあるので、学校行事を精選するなどの意見が出ている。
ICT活用(デジタル指導部)	・授業におけるICT機器の利用を促進する。 ・生徒用タブレットの管理と活用を促進する。	・ICT機器の整備を進め、教員が気軽にICT機器を使える環境を整える。 ・生徒用タブレットの利用規定を定め、生徒用タブレットの活用を促進する。	・事務室と連携を図り、ICT機器や生徒用タブレットの適切な管理を行う。 ・生徒用タブレットの利用に関して、教務部や生徒指導部等の他分掌・学年との連携を図る。	・ICT支援員の協力で、Teamsの活用方法に関する教員向け研修を行うことができた。 ・生徒用タブレットの利活用に向けて、利用規程の策定を進めている。
広報(デジタル指導部)	・保護者へ学校行事等の情報を発信する。 ・中学生やその保護者に対し情報を発信する。	・リニューアルしたホームページの更新を積極的に行い、できるだけ早く保護者や中学生に学校の様子を伝える。 ・ニューズレターや学校紹介ビデオ等を通じた広報活動を行い、中学生に本校の情報を伝える。また、魅力発信フェスタ等、直接中学生と接する機会を有効的に活用する。	・ホームページによる情報発信に力を入れるため、迅速な更新に努める。 ・見やすさや分かりやすさに焦点を置くことを忘れないようにする。	・ホームページに関して、翌日までに起案を行い、迅速に更新を行うことができた。 ・学校紹介ビデオやパンフレットを昨年度までのものから大きく変更し、中学生に対しての情報発信を強化することができた。
1 学年	・『人間力の向上～当たり前のことを当たり前にする～』を第1目標とし、生徒の規範意識の確立を図る。 ・他者とのコミュニケーションを通して、自己理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	・授業内や学年集会等で、生徒一人一人をよく観察し、その場に合った生徒指導を絶えず行っていく。 ・M S T や A S T での講話を通して、生徒に様々な情報を提供し、学校行事などに積極的に参加する意識を高める。また、生徒の自発的な行動を促し、豊かな社会性を身に着させる。	・学年団で共通の理解をもち、連携を取りながら、円滑な生徒指導を行う。 ・他学年や分掌と連携を取り、生徒に伝える情報を選別し、生徒が自発的に行動できるように心掛ける。 ・時間を意識させるとともに、号令・挨拶を大切に、授業に対して真摯な姿勢で取り組ませる。 ・部活動や学校行事への積極的な参加を支援する。	・生徒一人一人が北高生である意識を持ち、行動しようとする姿が見て取れるようになってきた。また、遠足や球技大会を通して行事に積極的に参加する意識が高まっている。今後そのエネルギーを自己理解等の将来に対する学習に活かしてほしい。
2 学年	・『優しく、鋭く、健康第一人間力の育成』を第1目標とし、生徒の自己肯定感の醸成を図る。 ・学校生活における規律を遵守する精神と自立心を育み、組織の活性化につなげる。 ・様々な事象から問題解決能力を育成し、進路意識の高揚を図る。	・始業前の教室に入る生徒の様子を注意深く観察し、M S T や A S T の諸連絡の徹底と共に正副担任の短い講話等によって円滑で機動的な学級経営につなげる。 ・授業規律の遵守と清掃活動や部活動への主体的参加を支援し、豊かな社会性と発展的活動の構築を図る。 ・家庭学習の習慣化によって学力の向上を図り、オープンキャンパスや進路研究から自己の進路について深く考えさせる時間を設ける。	・学年団の連携を密にして情報の共有を図り、生徒指導の円滑化に努める。 ・生徒の心身の健康観察を重視し、基本的な生活習慣を構築させる。 ・1つ1つの授業に対して真摯な姿勢で取り組ませる。 ・部活動への積極的な参加を支援する。 ・就職から進学まで、広範囲な進路指導について研究や研修をする場を設ける。	・『人間力の育成』の1つである「優しく」においては及第点であるが、「鋭く」と「健康第一」では発展途上である。特に、「健康第一」については、欠席と遅刻の数を昨年度同期と比較すると増加傾向であるので、改善に努めていきたい。ただ、「修学旅行」では体調不良者はほとんどなく、時間を守る観念が確立されていた。コロナ禍の実施であったため、生徒の緊張感が日常よりも高まっていたのかもしれない。 ・学校の中核として、学校行事、部活動、学習の3つにおいて、徐々にではあるが発展的活動へつながっている。今後は、諸問題の解決能力育成と進路意識の高揚を大きなテーマとして、指導を継続していきたい。
3 学年	・最高学年の自覚をもって、学校生活を送る。 ・自らの進路を切り拓く実力を付ける。 ・節度を守り、社会の一員として責任のある行動を取る。	・挨拶、身だしなみ、規律を徹底し、基本的な生活習慣を継続する。 ・生徒自身が具体的な将来のビジョンをもち、進路実現に不可欠な力を育む。 ・学校行事にも学習とのメリハリを付けて、意欲的に参加させる。 ・社会や地域の出来事に関心をもち、視野を広げるとともに、社会の一員である自覚を促す。	・一部の生徒は自分の進路をしっかりと見据え、学習に力を入れ始めた。しかし、全体としては多くの生徒が自分に甘い状態である。次年度は将来をより具体的かつ真剣に考えさせ、授業や進路行事を通して進路を切り拓く実力をつけるための努力を継続できる働きかけを計画的にかつ組織的に行っていく。	・大多数の生徒が最高学年の自覚を持ち、自分の進路に真剣に向き合うようになった。振舞いに落ち着きが出てきた生徒も見受けられる。一方で、特定の生徒は未だに生活面で指導を繰り返し受けている。 ・修学旅行では目立ったトラブルもなく、北高生として節度ある行動を取ったと認識している。 ・今年度は学校行事と学習が並行する期間が長いので、メリハリをつけながら両立できるよう適切に支援していきたい。